

解答

記号

20	一富士二鷹三茄子 いちふじにたかさんなすび	
19	一難去ってまた一難 いちなんさまたいちなん	
18	一事が万事 いちじばんじ	
17	急がば回れ いそまわ	
16	いずれ菖蒲か杜若 あやめかきつばた	
15	医者の不養生 いしやふようじよう	
14	石橋をたたいて渡る いしばしわた	
13	石の上にも三年 いしうへさんねん	
12	案ずるより産むが易し あんうらやす	
11	雨降って地固まる あめふじかた	
10	虻蜂取らず あぶはちと	
9	あばたもえくぼ	
8	後は野となれ山となれ あとのかやま	
7	暑さ寒さも彼岸まで あつさむひがん	
6	あちら立てればこちらが立たぬ あちらたえこちらたぬ	
5	当たるも八卦当たらぬも八卦 あたるもはっけあたぬもはっけ	
4	頭の上の蠅を追え あたまうへはえお	
3	頭隠して尻隠さず あたまかくしりかく	
2	秋茄子は嫁に食わすな あきなすよめく	
1	会うは別れの始め あはわかはじめ	

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
出会いの後には必ず別れがあるので、会うことは分かれることの始まりでもある。人生のおなしさを表した言葉。	好きになると、相手の欠点までもが長所に見えてしまうということ。	ものごとを、二つの立場の両方を満足させられるようにするのは難しい、ということ。	やる前からあれこれと心配していた物事も、実際にやってみると、思っていたよりもたやすいものだということ。	悪事や欠点をすべて隠し通したとおもっていても、実際にはその一部しか隠せていないことのたとえ。	目先の問題さえ片付けば、あとはどうなってもかまわない。なるようになれ、という無責任な態度。	占いは当たることも外れることもあるので、結果を気にしすぎてはいけないということ。	争いごとや悪いことが起こった後には、かえって物事がうまくいくこと。	用心を重ねて、物事を慎重に行うことのたとえ。	ある一つのことを見れば、ほかのすべてのことも推察できる、ということ。	どちらも優れていて、優劣がつけられないこと。	初夢に見ると縁起がいいとされるものを、順に並べた言葉。	秋のなすは美味しくてもったいないから、（または、体を冷やす効果があるから）嫁に食べさせてはいけない。	夏の暑さや冬の寒さは、彼岸の頃には和らいで、過ぎしやすくなるということ。	人の心配をするよりも、まずは自分のことをしっかりしなさい、ということ。人の世話を焼きたがる人などに使う。	二つの物を両方手に入れようとして、どちらも取り逃すこと。欲張りすぎて失敗すること。	つらくて大変なことでも、辛抱して続ければいつかは成功する。	危険な近道を通るより、遠回りでも確実な道を通る方が早く目的地に着く。	人には立派なことを言っておきながら、自分は、それを実践していかないことのたとえ。	次から次へと災難がやってくること。

解答

記号

21	一寸先は闇
22	一寸の虫にも五分の魂
23	言わぬが花
24	魚心あれば水心
25	牛にひかれて善光寺参り
26	氏より育ち
27	嘘から出た誠
28	嘘つきは泥棒の始まり
29	嘘も方便
30	鵜の真似をする鳥
31	馬の耳に念仏
32	瓜の蔓に茄子はならぬ
33	噂をすれば影
34	江戸の敵を長崎で討つ
35	海老で鯛を釣る
36	縁の下で力持ち
37	驕る平家は久しからず
38	小田原評定
39	鬼に金棒
40	鬼の居ぬ間に洗濯

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
相手が好意を示すのならば、自分もそれに応じて、好意をもって対応しよう、ということ。	思わぬ偶然や他人の誘いで、良い結果を得たり、良いほうへと導かれること。	人の意見や忠告を聞き流してしまい、何とも思わないことのたとえ。	平気でうそをつくようになると、やがては盗みも平気でするようになる。だから嘘はついてはいけないということ。	怖い人やうるさく注意してくる人がいない間に、のんびりくつろぐこと。	物事を順調に進めるためには、時と場合によっては嘘をつくことも必要だということ。	嘘で言いたはずのことが、たまたま実現してしまうこと。	意見が分かれていて、なかなかまとまらない相談や会議。	意外なところで、昔の恨みを晴らすことのたとえ。	将来のことは、ちょっとさきのことでも全くわからないということ。	小さくて弱い者にも相応の意地があるのだから、どんな相手であってもあなどってはいけない、ということ。	カラスが鵜を真似て魚を捕ろうとしても、うまくいかな。身の程をわきまえず、人の真似をして失敗すること。	平凡な親からは平凡な子供しか生まれないことのたとえ。	誰かの噂をしていると、その本人が現れることがあるということ。	少しの元手や努力で、大きな利益を得ることのたとえ。	思ひ上がってわがままに振る舞うものは、いつまでも栄えていることはできずに、勢力も衰えて滅びるということ。	口に出して言わない方が、味があるということ。また口に出すと差し障るので言わないほうがいい。	もともと強い存在が、何かを得ることでさらに強力になることのたとえ。	家柄の良さなどよりも育った環境のほうが、その人の人間的に大きく影響し、大切だということ。	人に知れないところで他人のために努力や苦勞をするのと。また、そのような人。

41	鬼の霍乱	
42	鬼の目にも涙	
43	帯に短したすきに長し	
44	溺れる者は藁をもつかむ	
45	思い立ったが吉日	
46	親の心子知らず	
47	蛙の子は蛙	
48	蛙の面に水	
49	風が吹けば桶屋が儲かる	
50	風邪は万病の因	
51	火中の栗を拾う	
52	勝って兜の緒を締めよ	
53	河童の川流れ	
54	勝てば官軍	
55	金は天下の回りもの	
56	壁に耳あり障子に目あり	
57	果報は寝て待て	
58	亀の甲より年の功	
59	鴨が葱を背負ってくる	
60	枯れ木も山の賑わい	

解答

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
つまらない、あるいは役に立たない物でも、無いよりはあったほうがましだということのたとえ。	鴨が葱を背負ってきたら、すぐに鴨鍋ができるように、都合が重なり、さらに都合がいいことのたとえ。	物事を始めようと決心したら、始める日を選ばずに、すぐに始めたほうが良いということ。	自分の利益にならないのに、あえて他人のために危険なことをするたとえ。	何かの名人であっても、油断したりして、時には失敗するということ。	隠し事はとにかく漏れやすいものだから、注意したほうがいいという戒め。	風邪を引くと体が弱り、他の病気にかかりやすくなるので、軽く見てはいけないということ。	どんな目にあっても、何も感じていないかのように平気でいる様子。	普段は丈夫で病気にかかりそうにない人が、珍しく病気になること。	たとえ物事が思い通りにうまくいっても、気を緩めてはいけないということ。	お金は人から人へと渡っていくので、今は貧しくてもいつかは回ってきたり、入ってきたお金は出ていく物だ。	平凡な親からは平凡な子どもしか生まれないということ。子どもの才能などは、結局は親に似るものだということ。	非常に困ったり苦しんだりしている人が、頼りになりそうにないものにもすがろうとすることのたとえ。	年長者が身に付けた長年の経験や豊富な知識は大事にするべきだということ。	物事が中途半端で何にも使えず、役に立たないこと。	ある出来事が巡り巡って思わぬ結果を生じること。また、当てにならないことに期待をすること。	最終的に勝ったほうが理屈抜きで正義となり、負けたほうがすべて悪いということになるのが世の常だということ。	無慈悲で鬼のような人でも、時には同情したり、かわいそうに思ったりして涙をながすことのたとえ。	親の子どもへの愛情を知らないで、子どもは好き勝手にふるまうものだということ。	運は人の力ではどうすることもできないので、焦らずに待っていた方が幸運はやってくるものだということ。

80	弘法筆を選ばず こうぼうふで えら	
79	弘法にも筆の誤り こうぼう ふで あやま	
78	郷に入っては郷に従え きょう いる は 郷 に 従 え	
77	孝行のしたい時分に親は無し こうこう したい じぶん おや な	
76	後悔先に立たず こうかい さいき た	
75	光陰矢のごとし こういん や	
74	喧嘩両成敗 けんか りょうせいばい	
73	犬猿の仲 けんえん なか	
72	芸は身を助ける げい み たす	
71	君子危うきに近寄らず くんし あや ちかよ	
70	苦しい時の神頼み くる とき かみだの	
69	口は災いの元 くち わさわ もと	
68	腐っても鯛 くさ たい	
67	木を見て森を見ず き み もり み	
66	清水の舞台から飛び降りる しみずの ぶたい から と お	
65	九死に一生を得る きゅうし いっしょう え	
64	雉も鳴かずに撃たれまい きじ な う	
63	聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥 きく は 一時の 恥、 聞かぬ は 一生の 恥	
62	聞いて極楽見て地獄 きいて 極楽 見て 地獄	
61	かわいい子には旅をさせよ かわいい こ には 旅を させよ	

解答

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
喧嘩をしたものは、どちらが悪いに関係なく、どちらも同じように罰を与えるべきだということ。	犬と猿のように、二者の仲がとても悪いことのとえ。	すでにしてしまった失敗を後で後悔しても取り返しがつかない。だから後悔しないように注意しなさい。	うまく世渡りするためには、その土地ごとの習慣に合わせ生活するのがよいということ。	優れた名人・達人は、道具のよしあしに関係なく立派な仕事をやるものだという。	人から話に聞いたものを実際に見てみると、聞いていたことと大きく違っていること。	知らないことを聞くことは、その時に恥をかくだけだが、知らないままだと一生恥ずかしい思いをすることになる。	価値あるものは多少条件が悪くなってもそれなりの価値はある。	身につけた技能はいざと言うときに役立つことがある。	信じていない神様や、あまり付き合いたくない人などに、困った時だけ頼ろうとすること。	立派な人は、常に慎重に行動して、軽はずみなことはしないものなので、危険なことには初めから近寄らない。	親のありがたみが解る頃には、すでに亡くなっているものだ。だから、親が元気なうちに孝行したほうが良い。	鳴いたがために撃たれた雉のように、必要のないことをした結果、災難を招いてしまうこと。	どんなに優れた人物でも、失敗することはあるというたとえ。	物事の些細な事ばかり注意していると全体を見失うということ。	自ら話したことが災いを招くこともあるので、余計な発言は慎んだほうが良い。	まず助からないだろうという危険な状態から何とか助かること。	月日がたつのがとても速いことのとえ。また、時間を無駄にしてはいけないという戒め。	甘やかして育てるよりも、世の中でつらくて苦しい体験をさせたほうが、愛する子どものためになるということ。	うまくいくかはわからないことでも、思い切って決断を下すことのとえ。

解答

記号

81	紺屋の白袴 こうやしろばかま
82	転ばぬ先の杖 ころさきさきつえ
83	先んずれば人を制す さきさきひとせい
84	猿も木から落ちる さるきからおちる
85	触らぬ神に祟りなし さわかみたた
86	山椒は小粒でもぴりりと辛い さんしょうこつぶから
87	三人寄れば文殊の知恵 さんにんよもんじゅちえ
88	地獄の沙汰も金次第 じごくきたかねしだい
89	親しき仲にも礼儀あり したなかれいぎ
90	失敗は成功の基 しっぱいせいこうもと
91	朱に交われれば赤くなる しゅまじあか
92	初心忘るべからず しよしんわす
93	知らぬが仏 しほとけ
94	好きこそものの上手なれ すきじようず
95	住めば都 すみやこ
96	急いては事を仕損じる せことしそん
97	梅檀は双葉より芳し せんだんふたばかんば
98	善は急げ ぜんいそ
99	袖振り合うも多生の縁 そでふあたしやうえん
100	泰山鳴動して鼠一匹 たいざんめいどうねずみいっぴき

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
大人になつて大成するような人は、子どもの時から並外れて優れているということ。	余計な災難にあわないために、余計なことには手出ししない方がいい。	世の中は、お金さえあればなんでも自由にできるといふこと。	焦つて事に当たると失敗しやすい。	人は付き合う友人や周りの環境によつて、良くも悪くもなるものだといふこと。	どんなに親しい仲でも、遠慮がなくなると喧嘩の原因になるから、それなりの礼儀を守つて付き合うべきだ。	失敗しないように、あらかじめ十分に用心しておくこと。また、そのような用心が大切だといふたとえ。	体は小さくても、意志が強く才能もあり、あなどることのできない者のたとえ。	一人ではよい考えが浮かばない凡人でも、三人集まつて考えれば、すばらしい知恵が浮かんでくるといふこと。	自分の技能は他人にばかり使つていて、自分の事には使われていないことのたとえ。	物事に慣れて急げたりすることのないように、それを始めたときの心構えや決心は忘れずにいるべきだといふこと。	良いと思つたことは、ためらわずに急いでやるべきだ。	前触れが大きい割に、大したことのない結果に終わること。	些細なことも何らかの因縁によつて結ばれているものだ。	人より先に行動すれば、有利になつて相手を制することができるといふこと。	どんなに優れた人物でも、失敗することはあるといふたとえ。	不便な場所でも長く住めば慣れて、良いと思えるようになるといふこと。	知つたら腹が立つようなことでも、知らないままでいれば平気でいられるといふこと。	好きなことには自然とやる気がでてくるから、上手になるといふこと。	失敗したとしても、反省して、失敗の原因を改善すれば、成功へとつながる。やがては成功するものだといふこと。

120	灯台下暗し とうだいもとくら	
119	天は二物を与えず てん にぶつ あた	
118	出る杭は打たれる でる くい う	
117	鉄は熱いうちに打て てつ あつ う	
116	敵は本能寺にあり てき ほんのうじ	
115	鶴は千年、亀は万年 つる せんねん かめ まんねん	
114	角を矯めて牛を殺す つの た うし ころ	
113	月とすっぽん つき	
112	沈黙は金、雄弁は銀 ちんもく きん ゆうべん ぎん	
111	塵も積もれば山となる ちり つつ やま	
110	提灯に釣り鐘 ちようちん づり かね	
109	短気は損気 たんき せんき	
108	玉磨かざれば光なし たまが ひかり	
107	旅は道連れ世は情け たび みちづ よ なさ	
106	旅の恥はかき捨て たび はじ す	
105	棚からぼた餅 たなもち	
104	蓼食う虫も好き好き たでく むし す す	
103	立つ鳥跡を濁さず た とりあと にご	
102	立っているものは親でも使え た おやつか	
101	ただより高いものはない ただ たか	

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	工	ウ	イ	ア
そばで立っている人に頼むべきだ。 いそ すぐの ことある とき には、 たとえ 親で あった としても、 ひと たの 頼む べき だ。	うまく話すことも重要だが、それ以上に沈黙していることの方が価値があることもある。 はな こと 重要 だが、 それ 以上 沈黙 している こと がある 価値 がある こともある。	旅先には自分を知る者もないので、恥ずかしい行いも平気でしてしまう。 たびさき には 自分 を 知る 者 も ない ので、 恥ずかしい 行い も 平気 で して しまう。	辛い夢を好む虫もいるように、人の好き嫌いはさまざまだということ。 辛い 夢 を 好む 虫 も いる ように、 人の 好き 嫌い は さまざま だ という こと。	少しの欠点を直そうとしてやりすぎてしまい、かえって全体をだめにしてしまうこと。 すこ しの 欠点 を 直そう として やり すぎて しまい、 かえって 全体 を だめ に して しまう こと。	才能があって抜きんでている人や、でしゃばっている人は、嫉妬されたり、憎まれたりするということ。 才能 がある 抜き んで いる 人や、 でしゃばって いる 人 は、 嫉妬 され たり、 憎まれ たり という こと。	寿命が長くて、めでたいことのたとえ。 じゆんが ながくて、 めでたい ことの たとえ。	短気を起こすと、いらいらしたり、他人と衝突したりして、損をすることになる。 たんき を 起こすと、 いらいら したり、 他人 と 衝突 したり して、 損を する こと になる。	予想もしていなかった幸運が舞い込むことのたとえ。 予想 も してい なかった 幸運 が 舞い 込む ことの たとえ。	身近なことほど案外気づきにくいものだ。 身近 な こと ほど 案外 気づき にくい ものだ。	立ち去るときの後始末は、見苦しくないようにきちんとするべきだということ。 立ち 去る ときの 後始末 は、 見苦しく ない ように きちん と する べき だ という こと。	小さなことも継続すれば膨大なものとなる。だから小さなこともおろそかにするべきではない。 小さい ことも 継続 すれば 膨大な もの となる。 だから 小さな ことも おろそか に する べき で は ない。	二つの物が、形は似ていても、比べられないくらいに差があることのたとえ。 ふたつの 物が、 形は 似て いても、 比べられ ない くらい に 差が ある ことの たとえ。	形は似ているが実際は違いすぎて比較にならないこと。つまり合いがとれないこと。 形は 似て いる が 実際 は 違い すぎて 比較 に なら ない こと。 つり 合い が とれ ない こと。	天は一人の人間に、たくさんの方所や才能を与えることはないということ。 てん は 一人 の 人間 に、 たくさん の 方所 や 才能 を 与える こと は ない という こと。	一人で旅するよりも同行者がいたほうが心強いように、世の中でも互いに助け合い生きることが大切だということ。 一人 で 旅する より も 同行者 が いた ほうが 心強い ように、 世 の中でも 互い に 助け 合い 生きる こと が 大切 だ という こと。	ただで物をもらうと、お礼にお金がかかったり、その人に頼みごとをされたりと、かえって高くつくということ。 ただ で 物を もらう と、 お礼 に お金 が かかった り、 その 人 に 頼み ごと を され たり と、 かえって 高く つく という こと。	① 考え方の柔軟な若いうちに鍛えておいた方がよい。② 情熱を持って事に当たれる時期を逃してはいけない。 ① かんがえ 方 の 柔軟 な 若い うちに 鍛えて おいた 方が よい。 ② 情熱 を 持ち っ て 事 に 当た れる 時期 を 逃して は いけ ない。	本当の目的が全く別のところにあることのたとえ。 ほんとう の 目的 が まったく 別の ところ に ある ことの たとえ。	才能や素質があっても努力なくして真価を発揮することはできない。 才能 や 素質 が あって も 努力 なく して 真価 を 発揮 する こと は でき ない。

140	習うより慣れる	
139	生兵法は大怪我の元	
138	怠け者の節句働き	
137	七転び八起き	
136	情けは人のためならず	
135	なくて七癖	
134	泣く子と地頭には勝てぬ	
133	泣きっ面に蜂	
132	長いものには巻かれろ	
131	鳶に油揚げをさらわれる	
130	鳶が鷹を生む	
129	飛んで火にいる夏の虫	
128	どんぐりの背比べ	
127	取らぬ狸の皮算用	
126	隣の花は赤い	
125	年寄りの冷や水	
124	所変われば品変わる	
123	時は金なり	
122	遠い親戚より近くの他人	
121	豆腐にかすがい	

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
く、日ごろ付き合ひのある近所の他人だということ。	時間はお金と同じように貴重なものだから、無駄に使ってはいけない。	どれも似たようなものばかりで、大した違いがないこと。	どんな人でも、多かれ少なかれ、何か癖をもっているということ。	普段怠けている者ほど他人が休んでいるときに限って忙しそうにするものだ。	自分から進んで危険を冒し、災難を招くこと。	まだ決まっていらないことを当てにして、計画を立てたり、利益を考えたりすること。	他人の物は自分のものよりもよく見えて、うらやましく思う。	物事は、人や本から教わるよりも、体験として実際に経験した方が身につく。	人の親切にすると、巡り巡って自分にいい報いがかえってくるので、自分のためにもなるということ。	その土地によって言葉や習慣は違うものだということ。	平凡な親が、才能のある優れた子どもを産むことのたとえ。	不運なことの上に、さらに不運なことが続けて起こること。	年寄りが、年齢に合わない無理や無茶をすることのたとえ。	理屈の通じない者や権力者などには、いくらこちらが正しくても勝てないから、従うしかないということ。	何の効果も反応もないことのたとえ。	何回失敗してもくじけずに、勇気を出して立ち上がること。	権力のある人や目上の人には、逆らうよりも従ったほうが得だということ。	中途半端な知識・技術はかえって失敗のもとである。	大切なもの、または自分のものになると思ったものを、いきなり横からうばわれること。

解答

記号

160	人は見かけによらぬもの	
159	人のふり見てわがふり直せ	
158	人の口には戸が立てられない	
157	人のうわさも七十五日	
156	必要は発明の母	
155	腹八分目に医者いらす	
154	早起きは三文の得	
153	花より団子	
152	暖簾に腕押し	
151	喉元過ぎれば熱さを忘れる	
150	能ある鷹は爪を隠す	
149	猫に小判	
148	猫に鯉節	
147	濡れ手で粟	
146	糠に釘	
145	二兎を追うものは一兎をも得ず	
144	逃げるが勝ち	
143	憎まれっ子世にはばかる	
142	逃がした魚は大きい	
141	二階から目薬	

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
食事を食べ過ぎずに控えめにしておけば、健康を保てるということ。	欲張って一度に二つのことをしようとしても、結局どちらもうまくいかないということ。	油断できない状況。危険な状態。	手ごたえがなく効果もないこと。	他人の行いを見て自分の行いを反省し、悪いところはなおしなさいということ。	人の本当の性格や実力は、外から見ただけではわからないということ。	人から嫌われるような人に限って、世間では幅を利かせているものだ。	少しも手ごたえがないこと。	早起きをする、健康に良かったり、仕事がかどつたりと、なにかと得をする。	価値のわからない者に貴重な品を与えても、何の役にも立たないことのたとえ。	実力や才能のある者ほど、それをおやみに見せびらかそうとはしない。	思うようにならなくてもどかしいこと。全く、効き目のないこと。	もう少しで手に入る、というところで逃がしたものは、実際よりも立派だったように思えるということ。	世間は忘れやすくどんな噂も長続きはしない。	必要なものを作ろうと工夫することから、発明が生まれるということ。	ほとんど苦労もせずに大もうけすることのたとえ。	風流を楽しむより実益を取る方が良いというたとえ。見かけよりも実質を取ることに。	時には、戦わずに逃げる方が、結果的に得になるということ。	世間でうわさ話が広がることを防ぐことはできないということ。	苦しく辛い出来事も、過ぎ去ってしまえばその苦しさを忘れてしまう。

解答

記号

180	負けるが勝ち ま かるが かつち	
179	まかぬ種は生えぬ まかぬ ねは せいえぬ	
178	骨折り損のくたびれもうけ ほねお ぞん の くたびれもうけ	
177	仏の顔も三度 ほとけ の がお も さんど	
176	仏作って魂入れず ほとけ づく たましい 入れず	
175	ペンは剣よりも強し ペンは けん よりも つよ し	
174	蛇ににらまれた蛙 へび に にら まれた かえる	
173	下手の横好き へた の 横 よこず き	
172	下手の考え休むに似たり へた の かんが え やす む に に たり	
171	下手な鉄砲も数撃ちや当たる へた な てっぽう も かずうち や あ たる	
170	豚に真珠 ぶた に しんじゆ	
169	笛吹けども踊らず ふえ 吹 けども おど らず	
168	夫婦喧嘩は犬も食わない ふうふ けんか は いぬ も く わない	
167	貧乏暇なし びんぼう 暇 なし	
166	貧すれば鈍する ひん すれば どん する	
165	ひょうたんから駒が出る ひょうたん から こま が 出 る	
164	百害あって一利なし ひゃくがい あって 一 ちり なし	
163	火のない所に煙は立たぬ ひ の ない 所 に けむり は た たぬ	
162	人を見たら泥棒と思え ひと を み たら どろぼう と おも え	
161	人を呪わば穴二つ ひと を のろ わば あなふた つ	

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
後には怒りだすということ。 どんなに温厚な人でも、何回もひどいことをされると、最後に	夫婦喧嘩の原因は些細なことであつたり、一時的なものだから、他人が心配する必要はないということ。	準備を整えて、さかんに誘っているのに、誰もそれに応じようとしないことのとえ。	結果があるからには必ず原因がある。努力なくしてよい結果は出ないということ。	貧しくなると頭も鈍くなる。	強敵や苦手なものなどの前で、恐ろしさから身がすくみ、動けない様子。	害になることばかりあつて、利益になるような良いことが何もないこと。	下手なくせに、そのことをするのが好きで熱中すること。	良い考えが浮かばないのに長い時間考えるのは、時間の無駄だということ。	貧乏な人は生活に追われ、暇がないということ。	争わず、あえて勝ちを譲ることで、一時的には負けていても、結果的に有利になり、勝ちにつながるということ。	苦労して完成させた物事に、一番大事なところが抜けていて、役に立たないこと。	他人に害を与えようとすれば、やがて自分もその報いをうけるということ。	苦労したのに成果が出ず、徒労に終わってしまうこと。	噂をされるからには、必ず何かの原因、事実があるだろうということ。	思いがけないところから意外なものが出る。冗談が現実となる。	優れた文章は世の人々を動かし、武力よりも強い力を持つということ。	何度もあれこれ試してみれば、偶然うまくいくこともあるということ。	他人を簡単に信用してはいけない。まずは用心しろということ。	

解答

記号

200	痩せの大食い やせのおおぐい	
199	安物買いの銭失い やすものかぜにうしな	
198	門前の小僧習わぬ経を読む もんぜん こぞうなら きやうよ	
197	桃栗三年柿八年 ももくりさんねんかきはちねん	
196	物言えば唇寒し秋の風 ものい くらびさむ あき かぜ	
195	元の木阿弥 もと もくあみ	
194	餅は餅屋 もち もちや	
193	目は口ほどにものを言う め ぐち いた	
192	目の上のこぶ め うえ こぶ	
191	目くそ鼻くそを笑う め け な わら	
190	無理が通れば道理引つ込む むり とお どうりひ こ	
189	昔取った杵柄 むかしと きねづか	
188	身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ み す せ	
187	実るほど頭の下がる稲穂かな みの あたま さ いなほ	
186	三つ子の魂百まで みつこ たましいひやく	
185	見ざる聞かざる言わざる み き い	
184	身から出たさび み 出たさび	
183	ミイラ取りがミイラになる ミイラ取りがミイラになる	
182	丸い卵も切りようで四角 まる たまご き しかく	
181	待てば海路の日和あり まて かいろ ひより	

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
感情のこもった目つきは、言葉に出すのと同じくらい気持ちを表すものだ。	相手を説得しようとしたのにいつの間にか相手に同調してしまう。	自分よりも立場が上で、何かとじゃまで目障りな人のたとえ。	物事は専門家に任せるのが一番である。	理屈に反したことが世の中で通用するようになれば、逆に理屈の通った正義は行われなくなるということ。	自分も似たような欠点をもっていることに気づかずに、他人の欠点を笑うことのたとえ。	昔身に付けた技量のこと。また、それが年を取ってから衰えないこと。	常日頃接していることは自然と身につくものだ。	悪い状況でも、あせらずに待っていれば、そのうち良いことがあるということ。	自分がしたことが原因で災難にあうこと。	努力や苦勞が無駄になっってしまうこと。	幼いころの性格は、一生変わらないということ。	痩せているくせによく食べる人のこと。また、痩せている人には、案外大食いな人が多いということ。	物事を成し遂げるまでには時間がかかるものだということ。	喧嘩になっってしまうこともあるということ。	言い方ややり方次第で、物事がうまくいくこともあれば、安物は品質の悪いものや使いにくいものが多く、すぐだめになるので、結局は損をしてしまうということ。	捨て身の覚悟で物事にあたって、はじめて成し遂げることができるということ。	心の狭い人ほど偉そうにふるまい、優れた人物はむしろ控えめで、素直な態度でいること。	余計な発言で災いを招く。人の悪口を言っていると、何となく後味の悪い気持ちになる。	自分に都合の悪いことや他人の欠点は、見ないふり、聞かないふりをして、余計なことは言わないようにすること。

220	和をもつて貴しとなす	
219	破れ鍋に綴じ蓋	
218	笑う門には福来る	
217	渡る世間に鬼はない	
216	若い時の苦勞は買つてもせよ	
215	論より証拠	
214	論語読みの論語知らず	
213	ローマは一日にしてならず	
212	労多くして功少なし	
211	瑠璃も玻璃も照らせば光る	
210	類は友を呼ぶ	
209	楽は苦の種、苦は楽の種	
208	楽あれば苦あり	
207	来年のことを言えば鬼が笑う	
206	弱り目に祟り目	
205	寄らば大樹の陰	
204	よしの髄から天井をのぞく	
203	病は氣から	
202	藪をつついて蛇を出す	
201	柳の下にいつもどじょうはいない	

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
議論するよりも証拠を示したほうが、物事をすっきり解決することができる。	書物をよく読んでいても、本質を理解していない。また、書物から得た知識があっても、実行が伴わない。	他の人と仲よくやっていくことが、何よりも大切だということ。	頼りにする相手を選ぶときには、できるだけ力のある人を選んだ方がいいということ。	楽をしていると後で苦勞することになり、逆に、苦勞をしておくと後で楽ができるということ。	苦勞が多いわりに効果が少なく、報われないこと。	余計なことをして、かえって損をしたり、災難にあったりする。	才能や素質のある人は、どこにいても目立つということ。	気の合う人や似ている人は、自然に集まって仲間になるものだということ。	偶然うまくいった時と同じやり方をしても、いつもうまくいくとは限らないということ。	長い時間と労力をかけて初めて、大きなことを成し遂げることができるということ。	どんな人にも、その人にぴったり合う相手がいるということ。また、そのような人と一緒になればうまくいく。	病氣は気持ち次第で、良くも悪くもなるということ。	若い時に苦勞しておくと、その経験が後で役に立つ。だから若い時には進んで苦勞したほうがいいということ。	不運なことや災難が、何度も重なって起こることのたとえ。	世の中は楽しいことはばかりではないので、楽しいことの後には、必ず苦しいことが来るということ。	笑い絶えない家は、自然と幸せが訪れる。また、どんなに辛い時もくじけずに笑っていれば、幸せがやってくる。	世間には、思いやりのない冷たい人だけでなく、困った時に助けてくれる親切な人もいるということ。	将来のことはわからないので、あれこれ言っても仕方ないというたとえ。	自分の狭い知識や経験だけで、広い世界や大きな問題についてを判断しようとする。